2008 年 7 月 10 日

西豪州ウランプロジェクトの権益獲得

三菱商事が 100%出資する豪州現地法人の三菱デベロップメント社（Mitsubishi Development Pty Ltd、以下 MDP 社＊）は、Cameco 社（本社：カナダ サスカチュワン州 サスカトゥーン）と共に Rio Tinto 社（本社：イギリス ロンドンおよび豪州 メルボルン）から西豪州キンタイア（Kintyre）ウランプロジェクトの権益を獲得することに合意しました。

MDP 社と Cameco 社は合弁事業体（MDP 社：30%、Cameco 社：70%）を組成し、Rio Tinto 社から 495 百万米ドルで Kintyre プロジェクトを買収します。Cameco 社は、カナダに本社を置くウランの採掘および精錬・加工において業界をリードする会社であり、本プロジェクトでもオペレーターとなる予定です。

MDP 社は Cameco 社や Kintyre 地区における先住民権を有するマルトゥ（Martu）族との協業を通じてワールドクラスである本プロジェクトの探査や開発を取り進めて参ります。

Kintyre プロジェクトは西豪州（パースから北東に約 1,250km）に位置しますが、一定レベルの探査が既に完了しているウランプロジェクトです。1985 年にウランが発見された後、1988 年まで大規模な探査活動が実施されていましたが、ウランマーケットの低迷を受け、探査は一時中断されていました。その後、ウラン価格の上昇を受け 2006 年に追加の検討が実施され、2007 年 11 月、Rio Tinto 社による売却プロセスに入りました。本プロジェクトの開発・採掘は西豪州政府および Martu 族による承認が必要となります。現在の西豪州政府はウランの探査は許可しているものの、新規のウラン鉱山開発は政策上禁止しています。一方で豪州連邦政府あるいは各政党ではウラン開発に理解を示す動きも一部には出ており、これを受けて将来的には開発が解禁されることが期待されております。

他の多くの発電方法と比較して大幅に温暖化ガスの排出レベルが低い原子力発電は、環境負荷の小さいエネルギー源と評価されています。Kintyre プロジェクトが開発に至った際は、日本などへの安定的かつ低コストでの燃料供給を実現するものであり、更なる温暖化防止にも貢献するものであります。

＊ MDP 社はオーストラリアのシドニーに本社を有する当社の 100%子会社です。同社はオーストラリアにおいて石炭や鉄鉱石の事業投資活動を実施しており、世界最大の原料炭供給者である BMA（BHP Billiton 社との合弁会社）の 50%の権益を保有しています。

以上

（参考）

<u>Kintyre 鉱区の位置</u>

西豪州（WA）・東ピルバラ地区。パースからは北北東に約 1,250km。